

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2022年1月9日（日）

主 題：「恵みの内に生きる人生」

—神の愛—

テキスト：コロサイ3章17節

はじめに

- ・2022年という新年が始まりました。
神は私たちの教会に、今年何を備えてくださるでしょうか・・・？
大いに期待をしたいと思います。
- {例 話}
- ・東京のある友人から、次のような話を聞いたことがあります。都内のある食堂の外に鳥籠が置いてありました。鳥籠の中には九官鳥が入っていました。九官鳥は一般的に、人の声を上手にまねることができる鳥です。
- ・その九官鳥もはっきりとした言葉で、通りかかる人々に話しかけていました。
「いらっしやいませ！」、「お〜い、焼酎！」と話しかけていました。
この九官鳥はかなり、店の繁盛に貢献していたようでした。ちなみにバイクの音も真似ができたそうです。それから、
- ・友人は帰宅し、奥さんと話しました。「九官鳥という鳥は本当に面白い鳥だ。一度、我が家でも飼ってみたいね。どうやって人間の言葉を覚えるのだろうか、知りたいものだ。わざわざ教えなくても、たぶん周りの人間が普通日常生活の中で話している言葉を聞いて、自然に覚えるんだろうね。」と話し合っていました。
- ・次の日の朝。寒さに震えながら、夫人と布団から起き上がり、次のような会話を交わしました。
「この頃、朝起きるのが辛いね・・・。」「辛いね・・・。」と。
- ・その時、彼はハッと気がつきました。もしも我が家で九官鳥を飼うことになれば、どんな言葉を覚えるだろうか。「辛いね。」「大変だ！」、「疲れた・・・」、「どうしよう。」というような否定的な言葉でしょうか。
- ・そうであれば、お客さんを我が家に招待することができなくなるかも知れない、と思いました。九官鳥が家族生活の実態をばらしてしまう恐れがあるからです。
- ・もしも、九官鳥を飼うことになれば、是非、次のような言葉を覚えさせたいものです。
「感謝します！」、「ハレルヤ！」、「アーメン」、「心配するな！」、「なんとかな

るさ」、「大丈夫だよ！」等

- ・言うまでもなく、九官鳥に言葉を覚えさせるなら、普段からこのような言葉を使うようにしなければなりません。九官鳥の問題は別としても、2021年はできるかぎり、ポジティブな言葉を語り、明るい年にしたいものですね。私たちが何を口から語るかが大切です。

- ・今日の聖書箇所は、コロサイ人への手紙3章17節の1節です。

3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

⇒この聖句は「クリスチャン生活全体」を表しています。つまり、

- ・私たちは、どんな生き方をすべきかであります。注目したい点は、「主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。」今日はこの1節を掘り下げてみたいと思います。

大切なポイント

1. 無限大の恵みにあずかる人

- ・約2週間ほど前ですが、私たちはイエス・キリストの誕生を記念するクリスマスを迎えました。マタイの福音書1章を開きますと、イエスキリストの複雑な系図が出てきます。新約聖書の1番初めに、「よりもよって、こんなに読みにくいものを持つてくるとは、編者は一体何を考えているのか」、と言いたくなるような系図です。私たち異邦人には、理解することが難しい系図です。
- ・このテキストでよく指摘されるのは、イエスがアブラハム、ダビデの血統ある家に生まれたということです。イスラエルの王としての正当性を主張するものです。
- ・しかしこの系図の中に、父系社会では珍しい4人の女性の名前が登場します。
タマル：策略によって「しゅうと」と関係を持ち子どもを生む マタイ 1:3
ラハブ：エリコの町の遊女 マタイ 1:5
ルツ：外国人の女性 マタイ 1:5
ウリヤの妻バテシェバ：人妻でありながらダビデ王と関係を持った女性
マタイ 1:6
- ・この人々は、全人類の救い主であるイエス・キリストの系図の中に入れるには、ふさわしくないとと思われるような人たちです。できることなら系図から外したいと、思うような名前です。しかしそこに神の恵みがありました。

1) ウリヤの妻

- ・私はその中でも最も汚れていると思われる「ウリヤの妻」の例を取り上げたいと思います。ダビデは少年時代に野で羊飼いをしていました。彼は羊飼いかから身を起こし、イスラエルの英雄となりました。その出世ストーリーは日本でいえば、豊臣秀吉のような「サクセス・ストーリー」です。
- ・どんな時にも、先陣で兵卒たちの先頭で戦い、イスラエルの人々に愛されました。しかし、王位につき国が安定してくると、兵卒たちが戦いに出ているのに、自分は王宮に留まり、だらだらした生活を送り始めました。その時です！ 聖書は次のように記し手います。 第2サムエル記11章
 11:2 ある夕暮れ時、ダビデが床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、一人の女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。
- ・夕暮れ時、床から起き上がるとは、戦場で命がけで戦っている部下・兵卒たちに対する侮辱でした。それは緩みきった生活と精神を表します。そんなスキだらけ、緩みきった精神に誘惑がやってきました。王宮の屋上を歩いていると、非常に美しい女の人が体を洗っているのが見えました。その人は部下ウリヤの妻バテシェバでした。ダビデはすぐに人を送り、バテシェバを呼び関係をもってしまいました。その結果、彼女は妊娠してしまいました。
- ・それで慌てたダビデは、急いでウリヤを戦況報告という名目で戦場からエルサレムに呼び戻し、バテシェバのところに帰しました。自分の姦淫の罪がばれないようにと図りました。（隠滅工作）
- ・ところがウリヤは、自分の家には帰ろうとはしませんでした。ウリヤは、「私の戦友が今、生きるか死ぬかの戦いをしている時、自分だけ家に帰ることはできない」と言いました。
- ・するとダビデは、ウリヤがバテシェバのところに帰ろうとしないのを知り、ウリヤの上官である將軍ヨアブ宛に手紙を書き、それをウリヤに持たせて戦線に送りました。その手紙には、「ウリヤを激戦の真正面に出し、彼を残してあなた方は退き彼が打たれて死ぬようにせよ」（11:15）と書いてありました。
- ・皆さん！！ なんという卑劣（恐ろしいこと）でしょうか。これが人の心中です。 激戦地でウリヤは死にました。その時、ダビデは「よかった、だれにもバレなかった」と思いました。しかし、神はすべてをご存知でした。

2) 預言者ナタン

神は、預言者ナタンを遣わしてダビデに語りました。

2 サムエル 1 2 章

12:1 【主】はナタンをダビデのところに遣わされた。ナタンはダビデのところに来て言った。「ある町に二人の人がいました。一人は富んでいる人、もう一人は貧しい人でした。」

12:2 富んでいる人には、とても多くの羊と牛の群れがいましたが、

12:3 貧しい人は、自分で買ってきて育てた一匹の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていない人でした。子羊は彼とその子どもたちと一緒に暮らし、彼と同じ食べ物を食べ、同じ杯から飲み、彼の懷で休み、まるで彼の娘のようでした。

12:4 一人の旅人が、富んでいる人のところにやって来ました。彼は、自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を奪い取り、自分のところに来た人のために調理しました。」

- その話を聞いてダビデは激怒し、「**そんな奴は死刑だ！！**」と言った。すると間髪入れず、ナタンが叫びました。「**あなたがその男です。**」(12:7)
そこで、ダビデはすべてを知っておられる神の前に打ち砕かれたのでした。彼は、ひれ伏して罪を認めました。その時です！神は、ダビデの罪をお赦しになられたのでした。ここに、創造神が罪を赦すという「愛」があります。

3) ウリヤの妻バテシェバ

- この事件で普通言われることは、ダビデの罪とそれをお赦しになった神の大いなる恵みです。ですから、バテシェバには焦点が当たらないことが多いものです。
- 彼女は、王の手に逆らえない受動的な立場でありました。しかしよく読んでください。それだけではないことが分かります。バテシェバが体を洗っていたのは、王宮から何百メートルも離れたところではありませんでした。ちょっと見ただけで、非常に美しいとわかる距離でした。すなわち至近距離と言える場所でした。
- そう考えると、バテシェバは意図的に王が出てくる時間に合わせ、体を洗ったと考えられないわけではありません。彼女は自分の美しさを知っていました。そして王を誘惑し、王妃の位を手に入れようとしたかも知れません。ダビデはバテシェバに働いた悪の誘惑に引き込まれ、姦淫を犯し、そしてついに殺人を犯してしまいました。
- つまりバテシェバも罪に加担したことになります。彼女が存在しなかったならば、この事件は発生しませんでした。ダビデだけでなく、バテシェバも罪

に加担しました。やがて、この時の子は生まれて死んでいきます。ストーリーはこの後も続きます。➡ 聖書は人間の醜さを描いています。

- ・ しかし、ここで大切なことがあります。それはダビデとバテシェバの最悪の事件を通し知ることは、神にはどんな罪でも赦す権威があることです。神が清めることができない汚れはありません。 神が癒すことができない悲しみはありません。
- ・ 皆さん。神の前での罪や、汚れや、悲しみは、時が過ぎれば忘れられる、というものではありません。年を越せば忘れられるのでもありません。法的に無効になるのでもありません。
- ・ 罪は必ず清算し、赦されなければなりません。汚れは清められなければならないのです。そして、悲しみは癒されなければならないのです。メシアであるキリスト・イエスがお生まれになり、そして十字架に掛かり、御血を流されたのは、また死から復活されたのは、私たちの罪を赦す、そのためでした。それは ➡神の恵みです、しかも無限大の赦しです
- * クリスマスとは、その罪の赦しという「無限の恵み」にあずかった人のことです。

2. 神の恵みによる信仰者の道

3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

1) なぜ、「イエスの名」によるのでしょうか？

➡メシヤとしての権威があるからです。

名は存在を示します。「イエスの名」は王の王、主の主であり、一切の権威があります。イエスこそ神の子です。

2) 「イエスの名」を信じる者には、どんな特権が与えられているのでしょうか。

①罪の赦し：「預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられると、証しています。」使徒 10:43

②裁かれない：「御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。」 ヨハネ 3:18

③永遠のいのちを得る：

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」 ヨハネ 3:16

- ・イエスキリストは、死を破り復活されたお方です。メシヤです。

少し考えてください。「イエスの名」によるとは、すばらしい特権です。

主イエスとありますから、「主」と「しもべ」の関係（主従関係）です。

一般的に「しもべ」が主人の名を用いることはありえないことです。

＊しかし聖書は、「すべて主イエスの名によって」と勧めています（特権）

- ・ですから、聖書は勧めています。

3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって
父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

「ことば」と「行い」、それは ➡ 「言動」です（これが常に問題）

それは、神を信じる者の生き方を教えています。

{例 話}

- ・私は米国で、次のような話を聞いたことがあります。それは神を信じる人の生き方についてで、テーマは「もしも両親が『祈りの人で』あったならでした。

- ① 一人の子どもが父親の膝の上によじ登り、「お父さん、神様は死んでしまったの」と尋ねました。すると父親は「どうして、そんなことを聞くんだい」、と言いました。すると、その小さな子どもは「だって、お父さん。最近、神様にお祈りしていないんだもの」と言いました。父親は恥かしさで、深く頭を垂れました。
- ② 一人のまだ若い青年が電気椅子に連れて行かれました。彼は最後にこう言いました。「もし私にきちんとした父親と母親がいたならば、こんなことにはならなかったのに」
- ③ 賭け事をして、刑務所に入った人がいました。彼はこう言いました。
「親父のせいなんだ。子どもの頃、教えてくれたことは、酒を飲むこと、不正をすること、悪い行いをする事、偽りを語る事等でした。
もしも私の親が『祈りの人』であったなら、このような事にはならなかったのに、と。

- ・愛する皆さん！ 私たちの生きる姿勢が問われています。

2022年、私たちはどんな生き方をするでしょうか。みことばに従い、生きる者でしょうか。あるいは「祈りの人」と呼ばれる人となることでしょうか。それは、すべて自分次第です。

- ＊2022年という新年、私たちは神のみことばの前に、自分自身をおいて生きたいと願います。

ま と め

主 題：「恵みの内に生きる人生」

—神の愛—

- ・ 神の恵みによる信仰者の生き方は、どこにあるでしょうか？

3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

- ・ もし今年の終わり、我が家に九官鳥が飼われていて言葉を覚えているとするならば、九官鳥の口からどんな言葉が出るでしょうか？

「アーメン！」、「感謝します！」、「ハレルヤ」、「心配するな」、「大丈夫！」
と言う言葉が出ることを願います。

- ・ 神を信じる者の生き方はどこにあるでしょうか？ それは、恵みにより罪の赦しにあずかったものとして、恵みの特権に生きるところにあります。

それが、⇒神を畏れ、恵の内に生きる人生です。

God bless you!!